



学校だより

校訓：強き 正しき 温かき

金沢市立森本小学校
令和7年10月27日
校長 坂井 文代

初霜やたはむれに踏む草の上 松尾芭蕉



◆実りの秋に、心も実る

ついこの間までは暑かったのに、日ごとに秋が深まりが感じられる季節となりました。前庭の木々も少しずつ紅葉しています。運動場では、マラソン練習に励む子どもたちの息づかいが聞こえています。

11月は「実りの秋」と言われます。自然の恵みが豊かに実を結ぶこの時期、子どもたち一人ひとりの心や学びもまた、これまでの経験や努力の積み重ねの中で、少しずつ「実り」の時期を迎えようとしています。

2学期も折り返しを過ぎ、学習活動や学校行事、そして日常のふれあいの中で、子どもたちの成長がいつそう感じられる季節です。ご家庭とも連携を深めながら、一人ひとりの「心の実り」を支えてまいります。

◆DX時代を生きる子どもたちへ ～AIとともにある生活の中で、育てたい力～

最近では、家庭や学校の中でも、AI（人工知能）が少しずつ子どもたちの生活に入ってきています。

例えば、スマートスピーカーに「今日の天気は？」と話しかけたり、タブレットで宿題をする中でAIが問題のヒントを出してくれたり、動画サイトのおすすめ機能が子どもの興味に合わせて表示されたりと、AIはすでに私たちの身の回りの“見えない先生”のような存在になっています。



かくいう私も、最近では学校便りを作成する際に、ちょっとAIの力を借りることが増えてきました。とても助かっています。

しかし、便利だからといって、すべてをAI任せにしてしまうと、「自分で考える力」や「自分で判断する力」が育ちにくくなる心配もあります。

今、社会では「DX（デジタルトランスフォーメーション）」が進み、これからの時代を生きる子どもたちは、ますますデジタルとともに生きることになるでしょう。そんな時代だからこそ、私たちが大切にしたいのは、「自分で考え、判断し、行動する力」そして「友だちと協働して物事を進めていく力」です。

AIやデジタルの力を上手に活用しながらも、「これは正しいかな？」「これでいいのかな？」と、自分の心で感じ、自分の頭で考える習慣を、今のうちから育てていきたいと思います。

学校でも、「どうしてそう思ったの？」「他の方法はあるかな？」と問いかけながら、子どもたち一人ひとりが考える力を伸ばしていけるよう、友だちと学び合う楽しさを実感できるよう、日々の授業や活動に取り組んでいます。

◆1000m記録会において、練習がんばっています！

11月5日(水)の1000m記録会に向けて、毎朝元気に練習に励んでいる姿が見られます。朝、運動場を3周すると体育委員会から青いシールが一つもらえます。そのシールでドラえもんを作っていきます。全校の走る意欲をアップさせたいという体育委員会の取組です。楽しそうに走る姿が印象的で、終了の合図に「えーもっと走りたかった・・・」という嬉しい言葉まで聞かれます。そういえば、朝休みに走るようになってから、午前中の元気な子が増えてきたように思います。

体力だけでなく、最後まであきらめずに走り抜こうとする姿からは、成長や努力の積み重ねが感じられます。記録会当日には、その成果をしっかりと発揮できるよう、引き続き応援していきたいと思います。

6年間走り続ける1000m ～記録をとる意味～

本校では、いわゆる「マラソン大会」ではなく、「1000m記録会」として毎年1000m走の記録を取り続けています。これは、単に「タイムを競う」ことが目的ではありません。6年間という長いスパンで子どもたち一人ひとりの「成長の足あと」を記録し、自分自身と向き合う経験を大切にしたいと考えているからです。

1年生の頃は途中で歩いてしまっていた子が、6年生になると力強くゴールする姿は、心も体も大きく成長した証です。タイムが縮まったことはもちろん、粘り強く最後まで走りきる姿勢、苦しくてもあきらめない気持ちが育っていることも大切な成果です。

記録は「他人との比較」ではなく「過去の自分との対話」です。自分の成長に気づき、自信につなげる機会となればと思っています。保護者の皆さまにも、過去の記録と照らし合わせながら、お子さんのがんばりをぜひ一緒に振り返っていただければ幸いです。



6年生保護者の皆さまへ

森本中学校以外に進学予定のお子様は、早めに担任までお知らせください。